

平成30年度「学力・学習状況」検証事業研究成果報告書

市川市立稲荷木小学校

1 学校紹介

市川市立稲荷木小学校は、各学年2クラスの全12学級で児童数は400名の小規模校である。

2 研究主題

【27年度～29年度】 自ら考え、生き生きと表現する子の育成
～単元を貫く言語活動の実践を通して～

【30年度～】 主体的に学び合う児童の育成
～読む力の基礎・基本の定着を図る実践を通して～

3 研究の概要

(1) 児童の実態と課題 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果より

【国語】国語科の研究を長年行ってきたことにより、筆者の意図していることや、登場人物の心情の変化を叙述をもとに考えたり、書いたりすることはできるようになってきている。しかし、自分の考えを話したり、相手の意図するところを聞いたりすることは苦手である。他教科も含め、改善が求められる。

【算数】全体的に全国平均を下回っているが、特に「数と計算」が大きく下回っていることから、朝の15分学習などを使い、基礎的な計算問題を繰り返し行うなど工夫していく必要がある。

(2) 学力向上のための取組について

- ・一人一授業による校内授業研究会に加え、学校で統一した板書の仕方やノート指導など、若年層教員や異動してきた教職員でもすぐに活用できるようにまとめ、授業力の向上を図った。
- ・授業では、個人→グループ（班）→全体という学習過程を通して対話し、考えを深めていけるように授業を組み立てている。
- ・子供たちの思考を整理するために付箋を使い、意見をグループ化し比較する活動を多く取り入れている。考えを深めるために数多くの思考ツールを使うなど工夫してきた。
- ・六中・鬼高小・本校のブロックで『授業の約束「これだけは！」』を各教室に掲示したり、家庭学習リーフレット「家庭学習の手引き」を配付したりするなど連携を取っている。
- ・市川市で行われている、「まなびくらぶ」という校内塾を実施している。（本校では3年生、4年生の希望者対象）

(3) 加配教員の活用について

今年度は主に算数科において中学年以上に加配教員を活用し、単元や実態に応じてティームティーチングや等質、習熟度別での少人数指導を実施している。中学年以上の算数科の指導において、全ての学級できめ細かな指導を行うなど工夫した。

4 成果

研究のテーマでもある、「主体的に学び合う児童の育成～読む力の基礎・基本の定着を図る実践を通して～」を実践してきたことで、児童の「わかりやすさ」につながっている。特に、教師中心の授業から、子供たち同士で考え、対話することを重視した、子供が主体的に学ぶ授業への転換を図ることができた。